

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191500040		
法人名	松前さくら苑 株式会社		
事業所名	グループホーム 松前さくら苑		
所在地	北海道松前郡松前町字大沢652-13		
自己評価作成日	平成23年1月6日	評価結果市町村受理日	平成23年3月15日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0191500040&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年2月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設は国道から少し離れた松前温泉の隣にあり、春には桜が咲き、青葉に香りが漂い、鳥のさえずりが聞こえ、静かで自然豊かな場所にあります。漁業の町であることから、新鮮な魚介類や山菜が提供できるように努め、施設の畑で作った新鮮な野菜を提供しています。 松前町は北海道最南端に位置した城下町で、250種1万本の桜の名所でもあり、イカ釣り船の漁火が映える町です。そんな自然を感じて欲しいと思い、浜辺への散歩やドライブ、お花見や納涼祭などを行っています。恵まれた自然の中でゆったりと、自由にありのまま楽しく過しています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

桜の名所で知られる松前町は気候も温暖で歴史ある街である。「グループホーム松前さくら苑」は市街地から函館市寄りで、国道から1km程離れた豊かな自然に囲まれて建っている。敷地の入口には杉の一枚板で作った大きな看板があり、グループホームの存在感を示している。隣には「松前温泉休養センター」があり、創業者の作った理念である「自然の中でゆったりと 楽しく自由にありのまま 共に暮らす」ことを代表者・管理者・職員が一丸となって実践し、より質の高いケアサービスを提供するために努力している事業所である。当事業所では利用者同士がゆったりとしたペースで食事介助を行っている。
--

サービスの実現に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します									
項 目		取 り 組 み の 成 果 「該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 「該当するものに○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと		
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない		
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように		
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度		
			3. たまにある				3. たまに		
			4. ほとんどない				4. ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない		
			4. ほとんどいない				4. 全くいない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない		
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が						
			2. 利用者の2/3くらいが						
			3. 利用者の1/3くらいが						
			4. ほとんどいない						

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念が玄関、事務室、ホールに掲示している。毎日のミーティング時に唱和し、理念の実践に取り組んでいる。	「自然の中でゆったりと 楽しく自由にありのままに共に暮らす」を理念とし、ミーティングや日々の話し合いで掘り下げ、より質の高いケアを提供するために代表者・管理者・職員が一丸となって取り組んでいる。	今後は利用の機能低下に配慮し、本人が持ち得る力を最大限に引き出す工夫と努力に期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	清掃活動や町内会のお祭り参加、町内の会合や総会に参加する等、地域の一員として交流している。	町内会に入会し清掃活動や行事などに参加し、地域の一員として交流している。ボランティアや見学者を積極的に受け入れている。年1回管理者は地域で勉強会や講習会を開催し、自身が持ち得る専門知識を地域に還元する活動をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の方対象に、認知症サポート養成講座の開催が決まっていて、婦人会や役場への協力依頼をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での、意見、要望等は、サービス向上に生かせるように取り組んでいる。	年6回町内関係者・校長先生・消防団・町議会議員・民生委員・家族などが出席して開催し、事業所から行事や利用者の暮らし振りなどを報告し、参加者から意見や要望が出され、活発な話し合いとなっている。議事録や報告書も作成している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは、通達事項はもちろん、他に必要が生じた場合などに連絡を取り合い、協力関係を築くように取り組んでいる。	生活保護受給者も多く、開設当初より町役場とは通達書類の件などで連絡を密に取り合っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員に対して、身体拘束禁止の行為を理解してもらうために、ケア会議等で話しをしている。居室には元々鍵が設置されていない。防犯のため、夜10時から翌朝6時まででは玄関の施錠をしている。	身体拘束禁止に関するマニュアルを整備し、内部研修を開催したり外部研修に参加して職員の共有認識を図り、利用者の安心安全な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員を身体拘束、虐待予防研修会に参加させている。事業所内で、虐待がおきないように注意をしている。		

グループホーム 松前さくら苑

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○ 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が権利擁護に関する制度を学ぶ機会はまだ設けてはいないが、必要があれば活用できるように、学ぶ機会を活用したい。		
9		○ 契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分説明し、理解・納得をしたうえで、署名捺印を頂いている。		
10	6	○ 運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や施設を訪問した時、または更新認定の際に、意見、要望を伺っている。	面会時などに気軽に表出できる雰囲気作りに配慮している。遠方の方には3ヶ月毎に認定更新時に手紙や電話などで意見や要望・アイデアを伺い、職員会議などで話し合い反映している。	
11	7	○ 運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議にて、意見や提案を聞く機会を設け、反映させるように努めている。	不満や苦情は言い難い部分も多いが、職員会議の他にも管理者と半年毎に面談を行い表出しやすい雰囲気作りに心掛け、双方向的な意見交換に努め反映している。	
12		○ 就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を聞き、可能な限り職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○ 職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り、町外の研修を受ける機会を確保し、参加できるように努めている。		
14		○ 同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	あらためて交流する機会は設けてはいないが、相互訪問等を通じて情報交換をし、サービスの質を向上させてゆく取り組みに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○ 初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用を開始する時点で、本人の言動や行動に注意し、本人の不安や要望を汲み取り、安心して生活出来るような信頼関係づくりに努めている。		
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込みがあった時点から、気軽に話そう出来るような雰囲気づくりをし、家族が困っていることや、不安なこと、要望などを伺い、信頼関係づくりに努めている。		
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用を開始する段階で、情報を共有し、本人と家族が必要としている事を見極め、利用者の支援のあり方を考えながら、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○ 本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な介護にならないように、積極的に会話をするようにしている。暮らしを共にする者同士が楽しく生活出来るように努めている。		
19		○ 本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況を家族と共有して、家族と共に利用者を支えて行けるような関係づくりに努めている。		
20	8	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親類の交流が途切れないように、訪問、外出、外泊が自由に出来るように支援している。	地域に暮らす親戚や知人が訪ねて来たり、帰宅や外泊も自由に行っている。配偶者の月命日やお盆の墓参りを家族と一緒にやることを継続している利用者もいる。	
21		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者が孤立しないように、利用者同士の関係を把握し、利用者同士が支え合い、楽しく生活出来るような支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、必要に応じて、本人、家族の相談や支援に努めている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めているが、困難な場合は、日々の生活状況を見て、ケア会議にて本人本位の検討をしている。	日々の関わりの中で行動や仕草・表情などを細かく観察することを大切にすると共に、職員から選択肢を示し自己決定の機会を多く設けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話や家族からの情報から、生活歴を把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子はサービス記録等にて、職員が心身状況の現状が把握できるように努め、共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議でケアのあり方について話し合いをしている。又、本人、家族には介護認定更新時や必要に応じて、意見や要望を聞き、現状に即した介護計画を作成している。	管理者を中心に職員全員でモニタリングや意見交換・カンファレンスを行い、本人や家族の思いや意見を反映した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別の生活シートに記載し、職員間で共有しており、介護計画作成に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買物介助・通院介助等、本人や家族の要望に柔軟に対応し、本人や家族に満足して頂けるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公共機関を初め、町内会、婦人会やボランティアの方などにより、安全で豊かな生活が出来るように支援していただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の町立松前病院の訪問診療を受けている。通院希望者や、また、体調に応じて受診が必要となった場合は受診支援している。	1ヶ月毎に町立松前病院の医師が往診に来ており、体調に変化があった時や緊急時に対応している。歯科の訪問診療は週1回行われ、専門科の受診は職員や家族が同行して適切な医療を受けられるように支援している。	

グループホーム 松前さくら苑

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は配置していません。毎日のバイタルチェックや日常の様子を観察して情報を共有し、適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者とは訪問診療や月1回のケア会議を通して連携を計っている。また、体調に異常が見られた場合は、医師と相談して受診している。入院した場合は病院を訪問して、病院関係者からの情報や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	希望があればターミナルケアも支援してゆくが、医療的なケアが必要である場合のターミナルケアは出来ないことを家族に十分説明している。	重度化や終末期ケア対応については契約時に事業所のできることの限界を家族に説明している。また、職員間でも話し合いを重ね方針の統一を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故に備えたマニュアルは備えて対応出来るようにしている。救命救急、AEDの講習を受けている職員もいるが、応急手当や初期段階の定期的訓練は行っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全員参加のもと、火災に備えた消火訓練、災害に備えて避難訓練などを行っている。地域との協力体制も築いている。	年2回昼・夜を想定して通報手順や避難経路の確認など消防署の指導の基に地区消防団の参加を得て実施している。事業所独自の消防計画やマニュアルを作成している。災害に備えてカップめん・レトルトのご飯・スポーツドリンクなどを備えている。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、プライドを傷つけることがないような言葉かけで支援するように注意している。	おむつ交換やトイレ介助など援助が必要な時は本人の気持ちを考え、さり気ないケアを心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	分かりやすい言葉で説明し、利用者の思いや希望を感じとり、自己決定ができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間や入浴など、その日をどう過ごすかは本人の希望に合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望、また、本人にあった身だしなみやおしゃれ(染髪・洋服など)が出来るように支援している。理髪は訪問サービスを利用している。		

グループホーム 松前さくら苑

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食事の好みを考慮し、食べやすい形で提供している。共に行うことが出来る利用者は、職員と一緒に準備や食事の片付けを行っている。	献立は利用者の好みや新鮮な旬の食材を取り入れるなど食欲を高めたり、食事への関心を高めるように努めている。残存能力を活かし利用者が利用者の食事介助をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者に合った食事量やバランスを考えて提供している。食事量や水分量は一人一人の生活シートに記録し、職員で状況を共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、指示見守りや介助により口腔ケアを行っている。又、状況を把握し、歯科訪問診療時に診てもらっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄シートに記録し、排泄パターンを把握している。トイレで排泄できるように誘導し、出来る限り自立に向けた支援に取り組んでいる。	トイレでの排泄を大切に、排泄チェック記録を基に利用者個々のパターンやサインを職員全員が把握して、さり気なく支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録により排便状況を把握している。便秘については、訪問診療により医師と相談して、個々に合った予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週2回行っている。個々に入浴日は決まっているが、利用者の体調や希望により変更自由な柔軟な支援を行っている。	一週間の入浴回数や曜日の決めは一応あるが、本人の体調や気分により臨機応変に対応し、くつろいで楽しく入浴ができるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や体調に応じて休息していただいている。また、訴えがない場合は、本人の様子を観察して、休息や仮眠をして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は施設で行っていて、服薬情報で確認できるようにしている。服薬に変更あった場合は、その都度職員と情報を共有している。服薬記録簿により、きちんと服薬できているか確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割として出来ること、得意として出来ること等、一人ひとりが楽しく、気分転換が出来るような支援を行っている。		

グループホーム 松前さくら苑

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○ 日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望により、買い物や散歩などの外出支援に努め、天気の良い日はドライブしたりと楽しく過ごせるような支援を行っている。また、家族との外出や外泊も自由に出来るように支援している。	買い物や散歩は本人の希望に応じて行い、五感を刺激するために天候や体調に合わせてドライブを楽しむなど、日常的に外出の機会を多く確保している。また、毎年事業所に地元の道の駅を運営する会社から食事の招待があり、皆で外出・外食をして気分転換している。	
50		○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方は、小遣い程度を自分で管理して頂き、本人や家族の希望により、預かり金から自由に使うことが出来るようにしている。管理不可能な方は、施設で管理している。		
51		○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、電話の使用は自由に出来るようにしている。家族から電話がかかって来た場合は、本人とお話をして頂いている。		
52	19	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は常に天窓からの日が差し込んでいます。清潔を保つために、毎日の掃除は欠かさず行っている。湿度、温度にも気を配り、施設内の飾り付け等を行い、居心地よく過ごせるように工夫している。	共有空間は天窓から程よく陽が射し込み明るく、気になる音や臭いも無い。また、室温や湿度にも配慮されている。フロアの飾り付けは生活感や季節感を大切に、正月には地域伝統の繭玉飾りを利用者と職員が一緒に作成し、家庭的な雰囲気を醸し出している。	
53		○ 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にはテレビがあり、その周りにはソファが置かれ、一緒に見て楽しめるようになっている。		
54	20	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し、本人が、使い、慣れ親しんだ物や好みの物は自由に持ち込めるようになっている。	使い慣れた家具や家族の写真・思い出の品を持ち込み、温かい雰囲気の中で生活できるように工夫されている。	
55		○ 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの扉にはわかりやすく、カタカナで書いてある。トイレや浴室の中やホールの周りには手すりや設置しており、トイレ、浴室、各居室には、呼び出しブザーが設置してある。また、スプリンクラーも設置しており、安心して生活が出来るようになっている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム 松前さくら苑

作成日：平成 23年 3月 14日

市町村受理日：平成 23年 3月 15日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	1	理念に対しての取り組みが足りない。	利用者の機能低下に配慮し、本人が持ち得る力を最大限 に引き出す。	ケア会議等で、本人の出来る部分を理念に反映させる。	1年間
2	8	職員が権利擁護に関する制度を学ぶ機会を設けていない。	必要があれば活用できるように、学ぶ機会があれば活用する。	学ぶ機会の情報収集に努める。	1年間
3	33	利用者が重度化した場合の説明は入所時に説明はしているが、文書化したものがない。	入居時において、利用者が重度化した場合や終末期のありかたについて、取り組める範囲を示した書類を作成し、家族にきちんと説明する。	きちんと文書化した契約書を作成する。	1年間
4	34	事故に備えた応急手当や初期段階の定期的訓練は行っていない。	利用者の急変や事故に備え、定期的に訓練を行う。	地元消防署に協力を要請し、訓練を行うようにする。	1年間
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。